

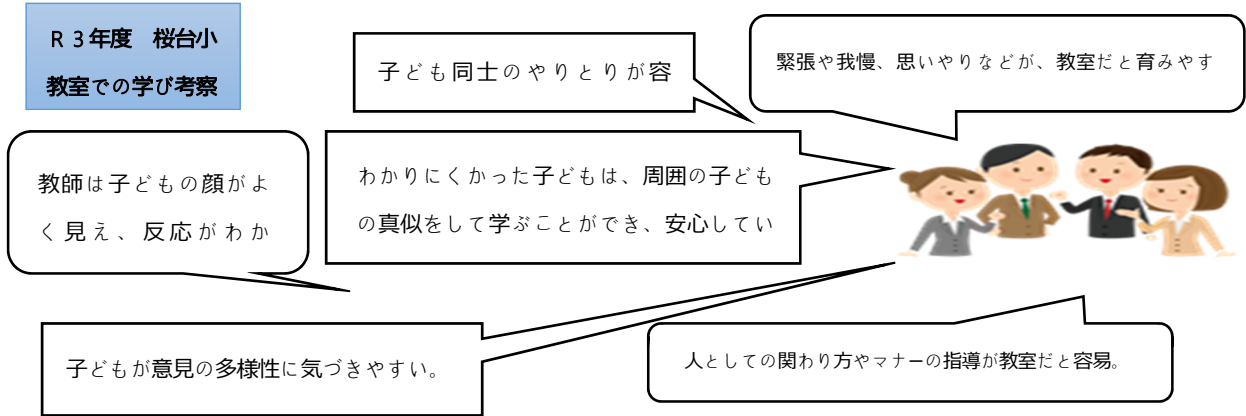


## 明けましておめでとうございます

新型コロナウイルス感染症という言葉がニュースで聞くようになって、3回目のお正月を迎えました。この間、子どもたちの生活は大きく変わりました。みんなで様々な対応をしていますが未だ収束が見えません。今年も、子どもたちの健康を最優先し、その中でも、子どもたちの学校生活が少しでも明るいものになるよう努力をしていきたいと思っております。

昨夏は感染者増加による臨時休業となったためタブレットPCを利用し、大人が自宅でテレワークをするがごとく、オンラインによる活動開始となりました。離れていても子どもたちの笑顔と発言を共有できたことで、教室での学びを深めるために利用するという本来のタブレットPCの趣旨とは少しずれた使い方ではありましたが便利さを感じました。

そして、今までの教室での学びについて考える良い機会ともなりました。本校では職員が6年生の子どもたちの意見を汲みながら教室での学びについて以下のようにまとめました。



認知科学の世界で『学び』とは『知識の変化』であるそうです。知識を『生きた知識』と『死んだ知識』に分け、生きた知識は他の知識と結びついて問題解決に使われ、変化していく知識となり、最終的に新しい知識に姿を変えるというのです。

本校の『子ども同士のやりとりが容易』『真似をして学ぶ』『意見の多様性に気づきやすい』という教室で学ぶ良さをもとにしてみると、子どもたちは学習中に同じ空間にいる友人の意見を直に見聞きすることで問題解決をし、自分の知識を新しい知識に変化させて『学んでいる』と言えます。

大人であれば、距離のあるオンラインでも問題解決ができるのですが、子どもにとっては直に関わる、対面する学習で問題解決をしていくことが重要なのだと感じました。

人と直に関わって生活したり学んだりすることは、時には難しさを伴いますが本校の子どもたちの『生きた知識』構築には必要と考えます。新型コロナウイルス感染症には今後も十分に注意をし、子どもたちが学校で集って学べるようにしていきたいものだと年の初めに思いました。どうぞ、今年も、ご理解やご協力をお願いいたします。